

三鷹教育・子育て研究所

第2回「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」次第

日時 平成22年8月24日14時

場所 三鷹市教育センター

1 研究所長あいさつ

2 議題

(1) 第1回「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」会議録要旨（資料1）の
確認について

(2) 三鷹市教育ビジョンの達成状況（資料2）について



(3) 意見交換

3 その他

4 今後の日程について

配布資料

- 1 第1回「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」会議録要旨（資料1）
- 2 三鷹市教育ビジョンの達成状況（資料2）

三鷹教育・子育て研究所「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」

(第1回会議録要旨)

日時 平成22年6月17日(木) 午後5時30分～7時

会場 三鷹ネットワーク大学

出席者 貝ノ瀬 滋(所長)、佐藤 晴雄(座長)、櫻井 眞治(座長代行)、吉村 春美、荒井 英治郎、林 寛平、藤川 雅志、八代 誠、内野 時男、松野 泰一、井上 明
(オブザーバー)

事務局 三鷹市教育委員会事務局総務課、指導課、三鷹ネットワーク大学

〈議事要旨〉

(注) この会議録は抄録であり、すべての発言が記載されているものではありません。

1. 三鷹市長あいさつ——清原慶子市長

市長に就任する前は大学の教員で、教育関係の学会にも多く所属し、教育は重要な研究テーマの一つであった。市長選挙の際にも、小・中一貫教育と三鷹ネットワーク大学・大学院の開設をマニフェストの一つに掲げ、5年前に三鷹ネットワーク大学を開設した。三鷹ネットワーク大学には、市民の皆様への高度な学習機会の提供とともに、研究開発、相談・ネットワークの機能がある。研究開発の機能としては、昨年度、私を所長とする「三鷹まちづくり総合研究所」を開設し、次の第4次基本計画における市民参加について取りまとめた。

今年度は、教育長を所長する「三鷹教育・子育て研究所」を開設し、三鷹市が実践している小・中一貫教育の基礎となる「三鷹市教育ビジョン」の見直しについて、検討をお願いすることとした。三鷹市は、平成18年4月1日から自治基本条例を施行しているが、この中に、学校を核とするコミュニティづくりの理念が明確に位置付けられている。こうしたことを前提にしながら、ご専門の立場で、自由闊達な議論をお願いしたい。

2. 三鷹教育・子育て研究所研究員の委嘱(略)

3. 研究所長あいさつ——貝ノ瀬 滋教育長

本市は、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校を軸にして、さまざまな教育改革に取り組んでいる。この取組みは、全国の自治体の中では非常に先進的な取組みとして評価されており、21世紀の日本の教育の追求にもつながると考えている。

教育ビジョンの見直しについては、平成22年度は、現状の教育ビジョンに不足しているところ、あるいは強化が必要なところなど、新教育ビジョンの骨格となる内容について議論していただき、提言をまとめていただきたい。平成23年度には、今年度の議論を踏まえて、新教育ビジョンの案を文章化し、策定に向けての取り組みを進めていくことになる。同時に、本研究所の教育シンク

タンクとしての一層の機能強化についても考えていきたい。何れにしても、新教育ビジョンについては、教育基本法や三鷹市自治基本条例を踏まえ、21世紀の、これからの教育を展望するにふさわしい教育ビジョンを確定したいと考えている。

4. 研究員自己紹介（略）

5. 座長・座長代行の選任（略）

6. 三鷹教育・子育て研究所の設置について――事務局より説明

三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会の今後の進め方――事務局より説明

三鷹市の教育の現状と教育ビジョンの見直しに向けた視点――事務局より説明

○佐藤座長 組織についての確認だが、「三鷹教育・子育て研究所」の所掌事項の一つに三鷹市教育ビジョンの見直し等があって、その見直し等を行う検討会ないしはワーキンググループが「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」であると理解してよいか。平成22年度中の研究会の活動は、三鷹市教育ビジョンの見直しが中心になるのか。また、例えば、子育ての研究会ができたとき、メンバーは変わるのか、同じ顔ぶれでいくのか。

○事務局指導課 「三鷹教育・子育て研究所」の中に「三鷹市教育ビジョンの見直しに関する研究会」があり、その研究会は、「教育ビジョンの見直しについて」を所掌事項にしている。子育ての研究が必要であれば、新たに子育ての研究会を立ち上げるが、その研究会のメンバーは必要に応じていろいろな形になる。

○櫻井研究員 教育ビジョンの見直しを進めるためには、その成果と課題を確認すること（検証作業）が大事ではないかと考えている。この点についてはどう考えるか。

○事務局指導課 教育ビジョンと教育支援プランの現状での達成状況、取組み状況について、現在、資料を作成しているので第2回の研究会で配付する。

○吉村研究員 教育ビジョンを最終的に提言にまとめる期限はいつか。提言を提出した後、研究員の役割はどのようなになるのか。

○事務局指導課 平成22年度は、現行の教育ビジョンの検証を行う中で、不足している点や今後の展望等を含めた新教育ビジョンの骨格的なものを提言としてまとめていただきたい。予定では、3月末までに提言を提出していただき、平成23年度は、新しい教育ビジョンを文章化し、23年度末の確定をめざしていく。市の総合計画（第4次三鷹市基本計画）の策定スケジュール、市民参加との整合を図る必要があるので、本研究員の関わり方については、今後調整をさせていただきたい。

○荒井研究員 次回以降の教育ビジョン等達成状況の確認についてだが、一定の指標がない限りは、それが達成できたかどうかという判断はつきにくいと思うが、その指標はあるのか。また、ない場合、それを判断する基準のようなものはあるのか。

○事務局指導課 教育ビジョンについては、指標を意識して策定したわけではないので、何を

って達成したと判断できるのかは非常に難しいと思う。例えば「実施する」とか「確立する」については、「実施」「確立」していればよいのだが、その程度というか今後の展開についても考える必要がある。判断材料が集められないものについては、達成状況をどのような形で測っていったらよいのかご意見等をいただければと思う。}